



## 滋賀大YouTubeチャンネル更新中!

本学の独自の教育や先進的な取り組みを、公式YouTubeで発信しています。このほか、年2回発行の広報誌では紹介しきれない大学のトピック、学生たちの日々の活動紹介、卒業生からのメッセージなどお届けしています。ぜひご覧ください。



滋賀大のホットなニュースをお届け  
1分でわかる! SHIGADAI Weekly News



滋賀大学の先進的な取り組みを紹介  
SHIGADAI Challenge



豊かな人間性と創造力・構想力を培う  
滋賀大学のリベラルアーツ教育

動画は  
こちらから



滋賀大学広報誌 Vol.60

# しがだい

[発行日] 2024年10月

[発行] 国立大学法人 滋賀大学

[編集] 滋賀大学広報部会

須齋 正幸(理事・副学長)

大平 雅子(教育学部)

蔵永 瞳(教育学部)

富田 健一(経済学部)

宮西 賢次(経済学部)

佐藤 智和(データサイエンス学部)

西山 さよ(広報課)

滋賀大学広報課広報係

〒522-8522 彦根市馬場1丁目1番1号

TEL 0749-27-7524

E-mail koho@biwako.shiga-u.ac.jp



アンケートのお願い

「しがだい」のより充実した誌面づくりのために、Webアンケートのご協力をお願いいたします。



学生広報サポートチーム考案  
カモンちゃんLINEスタンプ販売中!



LINE STOREを  
チェックなり!



カモンちゃん

日本の開国を主導した井伊直弼公をモチーフにした滋賀大学公式キャラクター。名前は直弼公の官位、掃部頭(かものかみ)に由来しています。滋賀大学に“come on”という意味も掛けられています。本学学生が在学中に取り組み生み出されました。



教員・学生によるダイバーシティ座談会

## 多様性があるから、 世界が広がる



彦根キャンパスにて

## 学長メッセージ

# 活気の戻った キャンパスでの新たな活動

## 次世代に向けて教育研究の環境整備を

3年間にもおよぶコロナ禍が一定の収束を見せ、2023年4月よりキャンパスでの活動の制限がなくなりました。しかし長いコロナ禍でしたので、元に戻るのにも時間がかかり、コロナ以前と同様の活気が戻ってきたのは今年度になってからのように思います。彦根キャンパスは、経済学部の前身である彦根高等商業学校創立100周年を迎え、2023年11月には記念式典を盛大に行うことができました。そして100周年を記念して、植樹と石碑の建立を行いました。記念の樹がこれから大きく育ち、石碑と共に滋賀大学の新たな発展を見守ってくれるものと思います。また2025年には教育学部が創立150周年を迎えますので、こちらも大学として準備を始めています。

彦根キャンパスでは、2023年度に採択された「地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業」による産学連携研究のための「イニシアティブ棟」の建設が始まりました。2025年3月には完成の見込みです。文部科学省が提唱する国立大学のキャンパスのイノベーション・commons(共創拠点)化の方針に沿い、

社会との連携を進めイノベーションを育むための施設です。共同研究が目的の建物ですが、1階は学生も集うオープンスペースとなります。また、豊かな自然と伝統に恵まれたキャンパスにふさわしく、伝統やアートの要素も取り入れた建物として計画しています。

最近の生成AIの発展には目を見張るものがあり、滋賀大学でも生成AIの積極的な活用に取り組んでいますが、生成AIが注目されている一つの理由は、文章、画像、音楽といったアートの領域でも生成AIが優れた性能を発揮しているからです。滋賀大学ではデータサイエンスをアートと融合させた新たな学際領域を「データアート&サイエンス」とよんで、さまざまな活動を行おうとしています。

2023年度は施設整備事業の採択に続いて、「高度情報専門人材の確保に向けた機能強化事業」にデータサイエンス研究科および学部の定員の大幅増とAI分野の教育強化を含む構想を提案し、高い評価を得てハイレベル枠で採択されました。これも滋賀大学の教育研究活動の発展を加速化するものです。

## 滋賀大学長 竹村 彰通

### Profile

1952年生まれ。1976年東京大学経済学部卒業、1978年東京大学大学院経済学研究科理論経済学・経済史学専門課程修士課程修了。米国スタンフォード大学統計学部客員助教授、米国パーデュー大学統計学部客員助教授、東京大学経済学部教授、東京大学大学院情報理工学系研究科教授を経て、2015年5月滋賀大学に就任。2017年4月から滋賀大学データサイエンス学部長、2022年4月から現職。

## 学長メッセージ

# 01 活気の戻った キャンパスでの新たな活動

滋賀大学長 竹村 彰通

## 巻頭特集

# 03 多様性があるから、 世界が広がる

## 07 広がる学生支援 学びや挑戦を後押し

## 08 産官学連携、地域交流の拠点が新たに

## 09 しごだいChallengers

## 卒業生インタビュー

# 11 輝く卒業生たち

株式会社日立製作所 中田 柊馬さん  
彦根市立高宮小学校 少徳 信さん  
伊藤忠商事株式会社 上田 大夢さん

## 研究者インタビュー

# 14 活躍する研究者たち

データサイエンス学部 和泉 志津恵教授

## 国際交流

# 15 グローバル社会で 活躍するために 国境を超えた交流を

# 16 CLUB & CIRCLE

クラブ&サークル

# 17 ニュース&トピックス

# 18 滋賀大学へご支援のお願い



彦根城

学生広報サポートチーム活躍中!

記事企画と制作(P3、P14)、LINEスタンプ考案(裏表紙)など、大学の広報活動を学生目線でサポートしています。一緒に活動したい方は本学HPをご覧ください。



# 多様性があるから、世界が広がる

性別や国籍の違い、障がいの有無などにとらわれないダイバーシティ社会の実現に向けて、日本、そして世界でさまざまな取り組みが進められています。ところで、多様性とは何でしょうか。今回、大津キャンパスにある音楽教育支援センター(愛称:おとさぼ)に教員と学生が集まり、「多様性」について意見交換を行いました。

## PROFILE

**林 睦**  
教育学部教授  
滋賀大学教育学部附属音楽教育支援センター「おとさぼ」センター長(併任)

**山本 知香**  
教育学部特任准教授  
滋賀大学教育学部附属音楽教育支援センター「おとさぼ」センター専任教員

**柴原 茉央**  
教育学部研究科  
高度教職実践専攻(教職大学院)  
ダイバーシティ教育力開発コース 1年  
明誠学院高校(岡山県) 出身

**和田 睦月**  
経済学部 グローバル・コース 2年生  
桃山高校(京都府) 出身

## 特別支援や国際交流 多様性の取り組みを実践

**林** まずは滋賀大学への入学と、現在の学びについて教えてください。

**和田** 高校時代に英語が好きになり、英語力の習得と英語圏への留学を視野に語学系学部進学を検討していたところ、滋賀大学経済学部にグローバル・コース<sup>(※1)</sup>があることを知りました。英語をツールとして使いこなし、世界で活躍できる知識を得られることに魅力を感じ、入学を決めました。グローバル・コースでは留学生と関わる機会やネイティブの先生によるオールイングリッシュの講義が多く、視野や思考が広がったように思います。

**柴原** 私は小・中学生の時、学校生活に苦しさを感じた経験から、特別支援教育に興味を持つようになりました。子どもの頃から「書道」に打ち込んできたこともあり、滋賀大学教育学部入学後は、国語の教員をめざしていたのですが、私が進む道は特別支援学校の教員なのではないかと考え始めた頃、教職大学院にダイバーシティ

の専門コースが設置されていることを知り、進学しました。現在は書くことに困難さを抱える子どもへの「書写」の活用と効果をテーマに研究をしています。

**林** 私は音楽教育が専門で、教育学部での教員養成と、附属音楽教育支援センター「おとさぼ」のセンター長として、企画・運営に携わっています。私や山本先生が運営する「おとさぼ」は、障がいのある方を中心に、音楽プログラムの提供や音楽活動の支援を行う、全国でも珍しい大学センターです。本学は、世界的なアール・ブリュット<sup>(※2)</sup>の工房である社会福祉施設「やまなみ工房」と連携協定を結んで、作品の展示なども行っています(P5参照)。「おとさぼ」での活動から、人間と芸術の本質について、たくさんの学びがあります。

**山本** 私は音楽療法に20年ほど取り組んでいます。「おとさぼ」の音楽療法には決まったプログラムがないのが特徴です。楽器や歌唱、ダンスなど、子どもの成長過程や気分、それぞれが好きなおことに合わせてサポートを行っています。



写真左から、山本知香特任准教授、和田睦月さん、柴原茉央さん、林睦教授。座談会は大津キャンパスにある音楽教育支援センター「おとさぼ」で実施しました

## 相手の受容と理解は 人それぞれ

**林** ダイバーシティは日本語にすると「多様性」ですが、さまざまな違いを持った人々が社会や組織の中で共存している状態を指しています。誰一人同じ人間はいないわけで、私は「人間は本来多様である」と考えています。

**柴原** では、なぜ今になって「多様性」がクローズアップされ、社会で重視されるようになったのでしょうか。

**林** 人口減少やグローバル化など、社会構造の変化に伴い、これまでの進め方に限界が生じてきてしまっているのだと思います。そこで、多様な人間や考え方を受け入れ、尊重することがこれからの社会形成に必要なだと気付いたのでしょう。

**山本** 私は、多様性とは捉えどころが難しい概念だと感じています。多様性には人種や性別、年齢、宗教、価値観、障がい、LGBTQなどあらゆる要素が含まれ、多様性の相互理解が不可欠と意識していても、どう認めて行動すればいいのか。柴原さん

は多様性をどのように捉えていますか。

**柴原** 多様性という言葉は抽象的で、私たち一人ひとりに解釈が任せられている部分が大いと感じます。どこまで相手のことを理解するのか、できるのか悩むところでもあります。特別支援と関係したところでは、YouTubeやSNSで障がいについて発信されている方がたくさんいらっしゃいます。普段の生活を知ることができるのは、今の時代の良いところだと思います。

## 多様性は流行の言葉？ 今は浸透への通過点

**林** 和田さんは、多様性をどう考えていますか？

**和田** 私にとっての多様性は、話題のもの、流行のものという印象です。私もYouTubeやSNSをよく見ますが、多様性とはまったくかけ離れた動画や投稿にも多様性、ダイバーシティという言葉が頻りに登場します。しかし、コンプライアンスと相まって

## 滋賀大学 DIVERSITY

### 理解が深まる 「全学共通教養科目」

滋賀大学では「全学共通教養科目」で、リベラルアーツ教育を取り入れています。構成分野の一つ、人文学・社会科学を学ぶ「ヒューマニティーズ」では、人間、社会、国際に関する認識を深めながら、理想の人間のあり方、理想の社会のあり方を思い描く力をつけることをめざしており、「男女の共生」「人権問題を学ぶ」「福祉と教育」といった科目を設け、全学部に履修する機会を提供しています。

※1 経済学部の特別コース。国際社会の課題や多様性に柔軟に対応できる人材を育成するために、英語による専門科目や海外研修などを設けている。

※2 アール・ブリュットは「生の芸術」を意味するフランス語で、既存の美術教育の影響を受けていない芸術作品のこと。

## あなたにとって ダイバーシティとは？

学生たちは日常生活の中で、ダイバーシティをどのように捉えているのでしょうか。話を聞いてみました。

外国人やセクシュアルマイノリティの方、ハンディキャップを持った方と交流することは非常に少なかったのですが、カナダに2年間留学し、さまざまな人と交流し、それぞれの置かれている状況を知ったことで、ダイバーシティについて考えることが増えました。

橋本 裕貴 経済学部 3年生 一宮西高校(愛知県) 出身

小学生の頃から若干の性別違和を持っています。大学進学後は素の自分を出せるようになり、さらに大学の授業でジェンダー平等に取り組む先生に出会いました。現在はその先生が共同代表をされている市民団体でジェンダー平等をめざす活動をしています。

くれは 経済学部

1年生の頃から、ひとり親家庭の中学生の居場所ボランティアを続けています。中学生と向かい合う中で、私自身、進学するごとに所属するコミュニティに自分と似ている人が多くなること、自分の生活や人生が「あたりまえ」でないことに気付かされました。

寺嶋 優介 経済学部 3年生 豊岡高校(兵庫県) 出身

「言語文化と異文化理解」の授業で「国や言語だけではなく、家庭による方針の違いによっても許容範囲の感覚が変わってくる」と先生がおっしゃっていたことから、私が思う以上に世の中には多様な人がいることに気付き、物事を多角的に考えられるようになりました。

佐山 結香 教育学部 4年生 石山高校(滋賀県) 出身

## 滋賀大学 DIVERSITY

教育学部・教職大学院で  
専門性を高める学びも

教育学部では今年度より「ダイバーシティ教育専門科目群」履修プログラムを開始しました。教育現場における複合的な課題を解決できる人材育成をめざすもので、国際理解、特別支援、いじめ・不登校問題、幼小連携の4領域と活動を、4年間で履修するものです。

また2021年度には、教職大学院に「ダイバーシティ教育力開発コース」を設置し、より高い専門性を備えた教員の養成を行っています。

## 滋賀大学 DIVERSITY

障がい学生支援室が  
学びをサポート

「障がい学生支援室」では、支援を希望する学生がより良い環境で学生生活が送れるよう各学部・研究科、さらに必要に応じて学外との関係機関との連携・調整を行っています。

支援は入学前・入学後それぞれの段階で、学生個々の実情に応じて行っており、入学後は履修相談、授業や試験での配慮や学習支援を行うと共に、メンタル面、健康面においてもサポートをしています。

## 学生サポーター募集中

手書きやパソコンによるノートテイクや、車いす学生の移動助働などを行う、学生サポーターを募集しています。関心がある方は、障がい学生支援室までご連絡ください。



心地いいです。

**山本** 多様なあり方を尊重しあい協力することに心地よさを感じられるというのは素敵ですね。

**和田** 私は今回、みなさんとの話を通じて、多様性をよりポジティブに捉えられるようになりました。

**林** それはうれしいです。では、今後どのように多様な社会を歩んでいきますか。

**柴原** 私は特別支援学校の教員になり、子ども一人ひとりの個性、特性に合わせて成長をサポートする人になりたいと思っています。

**和田** グローバル・コースでは留学が必須です。カナダかオーストラリアで学ぶことを希望しているのですが、これは英語圏であることに加え、どちらも多民族・多文化国家だからです。現地での生活によって成長できればと思います。

**山本** 二人とも頼もしいですね。私たち「おとさぼ」はセンターでの音楽療法やピアノレッスン、さらに特別支援学校や特別支援学級でのコンサート開催など、障がいと共に生きる方々が生涯にわたって音楽に親しむ機会を提供していきます。

**林** 滋賀大学でも、学内はもちろん、学外へ向けて、多様性を尊重する社会の形成をめざし、さまざまな取り組みが発信されていると感じます。今年度から、教育学部の「ダイバーシティ教育専門科目群」や教職大学院の「障害児の音楽活動と支援」といった科目で、学生のみならずにも正課で「おとさぼ」の活動に関わっていただけるようになりました。社会貢献活動と学びの循環が、多様性への理解につながればと思います。ダイバーシティを通じて新たな社会と未来が広がっていくといいですね。



てくるので、身近なところから向き合っていくのが良いのではないのでしょうか。

滋賀大学が多様な社会と  
未来へナビゲート

**和田** 先ほど話した授業では、滋賀大生へのアンケートも行いました。「滋賀大学は多様性をどのように改善すべきですか」という設問に対して、「全学部で留学生と関わる機会を増やすべき」「食堂にハラール(宗教上の食事規定)などのメニューを置くべき」など具体的な回答が多くあった中で、「多様性は目的ではなく、改善を図るものではない」との回答にはハッとしました。多様性という目的を達成したいために現状を無理に変えるのではなく、「さまざまな学生が学び合う大学」の先を見据えて、必要な何かを考えていくことが重要と気づきました。

**柴原** 何かを理解する際には枠組みがあるとスムーズだと思います。例えばSDGsとか。

**林** 確かにそうです。SDGsにしても、取り組む方向がクリアになりますね。多様性が目的になってはいけませんが、今は多様性への途上段階なので、わかりやすい目標を掲げて、それぞれが歩みを進めていければ、多様性はあたりまえのこととして社会に浸透していくかもしれませんね。

**柴原** 多様性と向き合うための対話、人間として対等に接するという先生のお話を聞いて、私はダイバーシティ教育力開発コースの魅力を改めて実感しました。学部から進学した院生だけでなく、学校の先生として活躍されている方などが在籍し、それぞれ人間性も学び方もさまざま。まさに多様なのですが、お互いを尊重し、それでいて協力しながら学んでいけることが



のか、ジェンダーに配慮して「パートナー」と言うべきなのかと悩んだりします。

**林** 多様性には、見える部分と見えない部分があります。見える部分は、この発言や行動なら大丈夫だろうと判断できますが、見えない多様性には気を遣いますね。

**山本** 自分と異なる人を目の前にした時に何かしらの違和感があるのは、通常の反応だと思います。ただ、この違和感にふたをしてしまうのではなく、自分が感じた違和感の原因を調べてみる。相手に対しては、可能な範囲で知ってもらうを試みる。こういった積み重ねが大切ではないでしょうか。違和感が多様性に向き合ううえで大事なサインだと思います。

**和田** なるほど。授業でアメリカからの留学生と多様性をテーマにディスカッションをしたのですが、日本人とアメリカ人の人種・民族への意識の相違に驚きました。民族や人種については、日本は歴史的に意識が薄いように思います。でも海外では、ルールなどさまざまな点でこれらの意識が強い。こういった民族・人種に対する感覚を留学でより体感できればと思います。

**林** 私は90年代の終わり頃にアメリカに留学した経験があります。ニューヨーク、そこはまさに「多様の世界」。多様な人々がそれぞれ自分を表現し、主張しながら、共存していました。そんな世界にいきなり飛び込んだのですが、自由で、生き生きとしていて、心地よいと感じました。そして多様な環境から学んだことは、目の前の人をたとえ赤ちゃんであっても、対等な個として認める文化が根づいていたことです。まずは個として互いに認め合うことが多様性につながるのかもしれない。

**山本** 多様性は概念として難しく、すべてを一人で引き受けることは簡単ではありません。理解には人間関係の構築も関わっ



いるのか、「多様性の時代だから、こんな表現や行動はNG」のような表現がよく見受けられます。私は多様性の重要性を理解しているつもりですが、世間の反応に接すると、「こうしないといけない」という義務感というか、押し付けられるようなネガティブなイメージを抱いてしまうことも否めません。

**山本** 「押し付けられる」というのは意外な表現ですね。

**林** 多様性が焦点化されたことで、何かしらの配慮が求められたり、互いの多様性についてもっと話し合いたい、わかり合いたいと思っても、それが押し付けのように感じられたり、些細なことで批判を受けたりして、発言や行動がしにくくなっていくのかもしれない。

**山本** 多様性の実質が伴わないまま、言葉が独り歩きしていることも考えられます。多様性を深く理解していれば、例えば配慮に欠けるような発言や行動に対しても、反応が変わってくる可能性がありますから。しかし、私は多様性の流行は決して悪いことではないと思います。今は多様性の浸透や定着の過渡期にあるので、実質と異なる事象が生じて、次第に本来の理解や許容が浸透していくのではないのでしょうか。

「少数派」は日常にもある  
違和感が理解への第一歩に

**林** 日常に浸透しつつある多様性と、私たちはどのように向き合っていくべきでしょう。

**柴原** 林先生がおっしゃった「人間は誰もが多様」という点では、多様性は特別なものではなく日常の人間関係の中にも存在すると思います。例えば、私は一人の時間も大切にしたいタイプですが、いつも仲間と過ごしたいタイプの人もいます。そういった私と異なるタイプの人から「休日に遊びに行こう」といった誘いを受けた時、行くべきか、でも一人で過ごしたいと葛藤してしまいます。その集まりで一人で過ごしたいタイプがほかにいなければ、私は「少数派」ということになります。仲のいい友だちは、「私はこういう人」と知ってくれているので誤解は生じづらいのですが、関係性を構築できていない人にはどんな対応をすればいいのか、向き合い方に明確な答えを出せずにいます。

**和田** よくわかります。例えば、初対面や関係性の薄い人たちとの場面で、恋愛に関する話題が上がった際、女性に「彼氏」のこと、男性に「彼女」のことを聞いていい

## 滋賀大学×やまなみ工房



山下 完和さん  
やまなみ工房 施設長

連携協定を結ぶ  
「やまなみ工房」から  
メッセージが届きました。

「おとさぼ」は、私たち「やまなみ工房」にとって、とても大切なもうひとつの居場所です。ギャラリーに足を踏み入れると、色を奏でた個性豊かな表現は瞬時に人と人をつなぎ、それぞれの優しく温かな気持ちの重なり、耳を澄ませばたかさんの幸せな気持ちが心地よいハーモニーとなって聴こえてきます。障がいがある、ないに関わらず、また性別や年齢、例えば生まれた国にちがいがあっても、すべての人がお互いの人権や尊厳を大切に、支え合い、誰もが生き生きとした人生を送ることができる未来への一歩、「おとさぼ」はそんな空間です。

多様性を尊重する社会の形成をめざして、社会福祉法人やまなみ会「やまなみ工房」と滋賀大学は、2024年1月に連携協定を締結。「おとさぼ」で同工房の作品を常設展示するなど、今後も交流を深めていきます。

# 学びや挑戦を後押し

滋賀大学には、学生の活動をサポートするために、ご寄附により設立された「KINTOみらいファンド賞」と「平野海外留学支援事業」があります。ここではそれぞれの支援事業を紹介すると共に、支援を受けた学生に活動について話を聞きました。

※募集要項は学生専用プラットフォーム(SUCCESS)で周知されます。

## 01 KINTOみらいファンド賞

学生の新たな才能の発掘と、挑戦し冒険する志を育むことを目的に、株式会社キントー様(本社:彦根市)からの寄附をもとに設立されました。滋賀大学の教育・研究方針に沿った活動を学内公募で募り、選考委員によって選ばれた活動には褒賞金が授与されます。

### STUDENT'S VOICE

#### 思いを形にするために調査を実施

(写真左から)  
中村 亮太 経済学部 金沢大学附属高校(石川県) 出身  
松本 和真 経済学部 四日市高校(三重県) 出身



昨今の地方の問題点として、若者の都市部への流出や地域経済の衰退があります。私たちが住む彦根市も、学生数は多いものの地域活動や日常の中で学生を見かけることは少ないと感じ、「学生企業シェアハウス」を提案しました。学生だけでなく、企業で働く大人、地域の子どもたちが交流できるサービスです。実現のために彦根市内の物件をめぐり、大家さんと話をし、他地域の施設を調査しました。このように実際に街に繰り出し、調査をしたことが、受賞につながったのではないかと思います。シェアハウス完成のために、大学での学びを活かし、今後も行動していきたいです。



「学生企業シェアハウス」の実現に向けた調査

#### 支援を受けるには…

起業家精神を持つ「進取の精神」部門、社会貢献・交流に関して優れている「三方よし」部門、挑戦的なマインドを持ち、アイデアを有する「滋賀大学チャレンジャー」部門の3部門があり、自薦他薦を問わず応募することができます。

## 02 平野海外留学支援事業

(経済学部、データサイエンス学部対象)

本学経済学部卒業生の平野紀人様のご厚志によって制定された、海外渡航への支援制度。海外での学びや生活が視野や思考を広げ、学生時代やその後の人生の糧になる活動をサポートしています。提出された報告書を国際交流機構が審査し、年度につき5名に20万円を支援します。

### STUDENT'S VOICE

#### シリコンバレーでスタートアップ投資を学ぶ

得能 悠平 経済学部 富山高校(富山県) 出身



幼少期から起業に興味があり、大学で財務会計を専攻して学ぶ中、ベンチャーキャピタルの重要性を知りました。最先端のシリコンバレーで学びたいという思いから、休学をして、スタートアップの投資を行う会社にインターンとして参加することを決意。投資判断を行うためのリサーチや資料作成、ミーティングへの参加から、投資の意思決定のプロセスを学びました。将来は、日本のテクノロジー企業の技術革新を促進すべく、資金調達や事業展開のサポートに関わりたくと考えています。後に続く後輩にも、この平野海外留学支援事業が、一歩を踏み出すきっかけになればと思います。



シリコンバレーでのインターン中のひとこま

#### 支援を受けるには…

2023年度は、2023年1月～12月に帰国した私費による2ヵ月以上の海外渡航(留学、インターンシップ、ワーキングホリデー)をした学生を対象に実施。締切日までに報告書による申請が必要です。



イニシアティブ棟完成予想図

## 産官学連携、地域交流の拠点が新たに

彦根キャンパスでは2025年3月の完成をめざして、「イニシアティブ棟」の建設が進行中です。民間企業や地域の自治体と、大学の研究者や学生が集い、共同研究を行うことによって、データサイエンス・AIの社会実装を生み出すオープンイノベーションの場として期待されています。

滋賀大学では「データサイエンス・AIイノベーション研究推進センター」を設置し、データサイエンス学部だけでなく、経済学部、教育学部が連携し、Society5.0社会を支えるデータサイエンスとAIの先端研究と社会実装を推進しています。今回、大学の新たな取り組みとして、センターを中心に産官学連携を推進する地域中核拠点「データサイエンス・AIイノベーション・commons」を、キャンパスと周辺地域に形成。その中心施設が、建設中のイニシアティブ棟です。

イニシアティブ棟では、人々や企業が交流する中で、「ヒト×技術力×研究力×滋賀大学の組織力」によってオープンイノベーションを創出し、日本の経済や産業を高度化させることをめざします。これまで滋賀大学が築いてきた多種多様な企業との連携を基礎に、イニシアティブ棟において産官学による共同事業の大幅な拡大を見込んでいます。

### 産官学の力を融合して豊かな未来を



深谷 良治  
滋賀大学データサイエンス・AIイノベーション研究推進センターセンター長

データサイエンス・AIイノベーション研究推進センターでは、「データサイエンスで世界を変える」というビジョンの実現に向け、産官学連携での学術交流、人材育成や共同研究を通じてイノベーションを推進しています。ここでは、学術知と産業界の実践知が融合し、新しいデータサイエンス・AI技術も生まれています。研究者や学生が企業と協力を革新的な産官学連携プロジェクトも増えてきています。より豊かな未来を共に創るため、多くの方々のご参加を心よりお待ちしております。共に挑戦して世界を変えていきましょう。

### イニシアティブ棟の機能

- [ 3F ] 課題解決ならびに基礎研究を目的とした共同研究員が互いに刺激し合いながら研究力を磨く場
- [ 2F ] 企業同士がコラボし、また研鑽しながら世界を牽引する技術を創造する場
- [ 1F ] 多様な人々が集まって未来創造のアイデアを発出する場

### ご寄附のお願い

『滋賀大学基金』では、「データサイエンス・AIイノベーション・commons形成基金」を設置し、建設中のイニシアティブ棟の建設を含む共同プロジェクトへの支援をお願いしています(税制上の優遇措置の対象です)。ご支援のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。



詳しくは『滋賀大学基金』ホームページをご覧ください

# しがたい Challengers

自身で掲げた目標を達成するために、学生たちは日々挑戦を続けています。  
今回はそんな3名の学生に話を聞きました。



## 経済学部

藤堂 華子 帝塚山高専(奈良県)出身



バイオリンの演奏会を各地で開催

### My challenge

## ケニアで 新規事業

### 言葉が通じない中で できることを模索

「将来は世界を舞台に活躍できる人になりたい」。この思いを胸に、1年間の休学を決意し、NY留学とケニアでのインターンシップに挑戦しました。ケニアでは4カ月間、現地のマカダミアナッツ製造会社でインターンシップに挑戦しました。最初はナッツの知識がまったくなく、現地語のスワヒリ語も話せないという状況で「自分ができることは何なのか」を考え、悩む日々が続きました。苦悩しながらも従業員との対話を通じて信頼関係を築き、多様な業務に携わる中で、不良品のナッツやナッツの殻の廃棄コストが利益を圧迫していることを発見しました。

### 20名のチームで 困難を乗り越える

そこから「ナッツの廃棄物から何か作れないか」と考え、20名の現場社員を率いて商品開発に取り組みました。最初に考案した商品がまったく売れない困難も経験しましたが、農家へのアンケートやホームステイを通して現地のニーズを探り当て、最終的には廃棄物を燃焼させることで肥料を製造する新規事業を立ち上げました。持ち前の、「物怖じしない挑戦心」「根性でやりきる力」を発揮して、企業と農家の双方の利益につながる新事業を成功させた貴重な経験となりました。

### 〔滋賀大の好きなおとこ〕

米国ビジネススクール出身の宮西先生のもとで、志の高い仲間と学問に打ち込める最高の環境が整っています。

### My challenge

## 数理統計学

### 学びを深めるために自主ゼミを開催

以前から数学に興味のあった私は、統計学の中でもよりアカデミックな類型に属する数理統計学の習熟を目標とし、その指標として1年生での統計検定準1級取得をめざしました。その独特な定義や膨大な情報量に苦心しながらも、晴れて2024年3月に取得。今はその知識を活かして機械学習や統計コンペティションに挑戦しようとしています。また、統計検定1級に向けての学習も考えています。

魅力的に映る所以ともいえます。インターンシップなどの機会があれば積極的に参加し、さまざまな業界についての知識を蓄えたいと、じっくりと進路を考えていくつもりです。また、私は数理統計学に関する自主ゼミを個人的に開催しています。私に連絡をいただければ、滋賀大生なら誰でも歓迎します。先生方からの支援も切実に欲しています。何かしら関心がある方は、下記のメールアドレスにご連絡ください。

s5023169@st.shiga-u.ac.jp

### 将来を視野に入れ 何事にも積極的に

私の最終的にめざす場所は未だ定まっておらず、ビジネス的側面にも理論的側面にもどちらにも興味がある状態でさまよっています。しかしそれが、データサイエンスという学類が私にとって



〔滋賀大の好きなおとこ〕 JR彦根駅からキャンパスまで距離があり(健康を気遣ってのことと認識)、こちらに住み始めてからはすこぶる健康になりました。

### My challenge

## ボート競技

※「国民体育大会(国体)」は2024年から「国民スポーツ大会(国スポ)」に名称変更

### 故郷の島根県に競技で貢献を

私は高校時代からボート競技を始め、現在も瀬田漕艇倶楽部(大津市)に所属しながら琵琶湖や瀬田川で練習をしています。毎年、さまざまな大会に出場していますが、その中でも特に国民体育大会(以下、国体※)は、都道府県の代表として出場するため、私にとって思い入れのある大会です。高校時代、インターハイ準優勝という結果を出すことができたが、それは自分たちの練習の成果だけでなく、地元の方々からの多くのサポートや応援があってこそ結果だったと思っています。

を利用して毎年、地元の島根県代表として国体に挑戦し続けています。学業や軽音楽部の活動と両立しながら国体に出場するのは大変な時もありますが、選手の確保が難しい今、自分が選手として国体に挑戦し続けることが地元への恩返しにつながると思い、大変な時も両立を心掛けて競技に取り組んでいます。今後は、2030年に島根県で国体(国スポ)が開催されることを視野に入れ、少しでも地元へ貢献できるよう、競技に向き合っていきます。



### 地元代表として 国体に出場

その経験から何らかの形で地元へ恩返しをしたいという気持ちがあり、大学入学後も「ふるさと選手」という制度

〔滋賀大の好きなおとこ〕 琵琶湖の波や風にも負けずに航行する調査艇「清流」はとてもしっかりと、琵琶湖調査の強い味方です。屋根とトイレがあるのも魅力!



## データサイエンス学部

中塚 大輝 京都芸術大学附属高校(京都府)出身



## 教育学部

三島 杏夏 松江北高校(島根県)出身

# 輝く卒業生たち

株式会社日立製作所  
なか た しゅう ま  
**中田 柁馬さん**

## Profile

滋賀県出身。2021年3月データサイエンス学部卒業、2023年大学院データサイエンス研究科博士前期課程修了。同年4月株式会社日立製作所入社、公共システム事業部配属。画像分析の業務を担当するほか、音声やテキストのデータ分析の自主的な学習にも努めている。学部時代は、外部のデータサイエンスコンペディションに積極的に参加し、ウインドサーフィン部で競技にも打ち込んだ。

## 文系出身でも社会直結の学びで 先端技術を活用するデータサイエンティストに

### 数学の入試問題も文系寄り 手厚いサポートで授業も安心

大学では社会に役立つ学問を専攻したいと検討していた中、滋賀大学にデータサイエンス学部(以下、DS学部)ができると知りました。私は文系ですが、社会でデータサイエンスが注目を集めていたことを見聞きしていたこと、DS学部が「文理融合」を掲げていたので、受験を決めました。入試問題に数学もありましたが論理的な要素が大きく、国語力が必要だったことを覚えています。入学後、基礎となる「数学Ⅲ」の内容は先生や理系の友人がわかりやすく教えてくれたこともあり、データサイエンスの要となる統計学では、データの収集や分析の演習を通じて理解が深まりました。

### 画像認識の奥深さに魅了され 大学院で漁場位置推定を研究

DS学部は先生や大学院生が主宰する自主ゼミが盛んです。卒業研究や将来に活かせる分野を見極めようと参加したところ、「画像認識」に出会い、その奥深さに夢中になりました。これをきっかけに、画像に写る物体をAIによって自動検出する研究を行う飯山ゼミに所属。卒業研究に打ち込みましたが、もっと学びたいとの思いからデータサイエンス研究科(以下、DS研究科)に進学しました。DS研究科では、気象衛星「ひまわり」の海面水温画像を分析し、マグロやカツオの漁場位置の推定に取り組みました。昨今の漁師不足や漁船の燃料高騰の対策、種の保存をはじめとしたSDGsの取り組みに活用でき、効率的な漁業を支援する



モデルとして実装し、国際学会での発表に至ったことは「社会に役立つ学びを」という私の願いが叶い、うれしかったです。

### 数字やデータを読み解くには 文系要素が大切だと実感

DS研究科修了後は、広い事業範囲に魅力を感じ、日立製作所に就職しました。現在はお客さまから預かった材料サンプルを画像分析し、報告・提案する業務を担当しています。難易度は高いですが、案件によって課題が異なることや、業務でないと触れる機会がないデータを扱えることに、おもしろさとやりがいを感じています。そして就職して再認識したのは、企業や自治体と連携して教育・研究を行っている滋賀大学DS学部の学びは、ほかになんということ。高校時代に文系だった私が、こうしてデータサイエンティストとして先進的な技術を活用したさまざまなDX推進の仕事をしていることは、当時は想像すらできませんでした。でも、数字やデータを分析した後、結果を解釈し、展開するには文系的な力が必要です。文系出身でも、滋賀大学DS学部ならデータサイエンティストの道が拓けるはずですよ。



## Profile

彦根市立高宮小学校  
しょう とく まこと  
**少徳 信さん**

滋賀県出身。2020年3月教育学部初等教育コース初等教科専攻国語専修卒業。同年4月に彦根市立河瀬小学校、2023年4月に彦根市立高宮小学校に着任。現在は3年生を担当として受け持ち、国語主任、滋賀県や彦根市の郷土教育主任、「情報」の助任を務める。学生時代に追究した俳句をライフワークとし、俳句教室でも活動している。

## 3人の“先生”に導かれて教師の道へ 国語の魅力と重要性を伝えたい

### 教職科目だけでなく ゼミでは俳句の研究にも熱中

私の両親は小学校の教員でした。二人が家で、学校での出来事や子どもたちの成長をうれしそうに語り合っていて、それを聞くことが私の日常のひとつでした。加えて、中学時代の担任の先生の熱心な指導に感動したこともあり、私が学校の教員をめざすようになったのは自然な流れだったのかもしれない。滋賀大学の教育学部は学習内容と教員採用率が高いこと、さらに父が滋賀大学大学院教育学研究科で学んだ縁もあり進学を決めました。最初は中学・高校教諭をめざすつもりでしたが、両親が「理科の実験で盛り上がった」「音楽の授業が楽しい」など話していたことを思い出し、小学校教諭専攻に決めました。大学では国語専修に在籍して学びました。私は古典文学が好きで、趣味で俳句を詠んでいたため、『古事記』『万葉集』が専門の井ノ口ゼミに所属。井ノ口先生と五・七・五の短い文字数に凝縮された俳句の奥深い世界を語り合うことが楽しく、卒業論文では松尾芭蕉を研究、執筆しました。

### 子どもの成長のために 「教える」ではなく「見守る」

入学時から子どもを対象にしたイベントに参加し、4回生の時には小学校のスクー

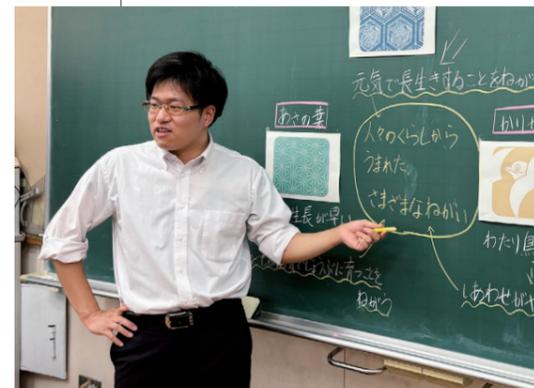


彦根市立高宮小学校

ルサポーターを務めていました。その中で気付いたのは「見守る」の大切さです。私が一方的に教えるのではなく、子どもが自ら考えなくなります。答えを求めて考えることで子どもは成長するので、今も「見守る」を大切にしています。現在は彦根市内の小学校で、3年生の担任をしています。授業で児童たちが試行錯誤をしながらも、前向きに取り組めるにはどうすればいいかを考え、授業の準備内容を深めていきます。そう考えると、教師の仕事は、とてもクリエイティブです。特に私の専門である国語は児童自身が言葉や内容を受け止め、自分の言葉で表現することが大切なので、授業には一段と工夫が必要です。先日、国語が苦手な児童が「文章を読んで考えるのが楽しい。国語の日は休みたくない」と言ってくれたことは教師冥利に尽きました。

### 教員採用試験では経験豊富な 先生の指導が心強い

滋賀大学教育学部には教員採用試験に携わった経験を持つ先生が多く、小論文や面接などを細かく指導いただきました。学生同士の絆が深く、勤務先や研修先で同窓の先輩や後輩に会う機会も多くあります。こういった教師仲間ができることもありがたいですね。学生時代、国語は学習も指導も難しいという友人がいましたが、数学の問いを解く際に問題文を読解する力が必要のように、国語はすべての科目につながっています。卒業生として国語を専攻する人が増えることを願っています。



伊藤忠商事株式会社  
うえだひろむ  
**上田 大夢さん**

**Profile**

京都府出身。2018年3月経済学部卒業。同年4月伊藤忠商事株式会社に入社、伊藤忠オートモービル株式会社に出向し、いすゞ自動車の中南米向けの営業、受渡業務に携わる。2019年からは伊藤忠商事にて営業業務を担当。2022年より2年間パナマでの実務研修を経て、2024年4月より機械経営企画部に着任。機械カンパニー基幹システムの保守・管理やデータ分析、生成AI導入検証などに取り組む。

**お客様と信頼を築き、貢献する「現代の近江商人」が目標**

**海外留学で意識改革  
ゼミで大きく成長**

入学後しばらくは将来のビジョンが定まっていませんでした。しかし、サークルの先輩の勧めから内閣府青年国際交流事業に応募し、エストニアに派遣されたことで、自分が大きく変わったと感じます。同世代の学生の社会や物事に対する意識の高さ、努力する姿に負けていられないと痛感。帰国後は、学部屈指の厳しさといわれる宮西ゼミに在籍することを決め、財務諸表分析や企業価値評価などの専門性を身につけました。また、ゼミ長を任せられ、徹底的にリーダーシップを鍛える機会をいただきました。ハードでしたが、コミュニケーション能力や問題解決能力などを養う場になったと思います。こうしたゼミでの学びや、エストニア派遣で芽生えた世界への意識を将来にどう活かせばよいか考えた結果、海外渡航を決意しました。世界的に話者数が多いスペイン語を授業で履修していたので、まず語学留学のためにスペインへ。その後、経済産業省の即戦力インターンシップ事業で選抜され、スペイン語が公用語であ



るペルーに渡り、食肉加工企業で新規事業設立のインターンシップに取り組みました。人種や文化、価値観が異なる中で業務をスムーズに進めていくことには苦労しましたが、ゼミで培った力を駆使し、周囲の人たちにはたらきかけて成果を挙げることができました。

**中南米での仕事を通じて  
商売のあるべき姿を実感**

ペルーでの経験から、就職先もラテンアメリカで活躍できることを軸に考えました。結果、事業領域が広範囲で、創業者が近江商人ということで滋賀大学と縁の深い伊藤忠商事に就職しました。就職後はいすゞトラックの中南米への営業販売を担当。パナマでの2年間の実務研修も務めました。もちろん学生時代に培ったさまざまな力や経験が業務に役立ったことは言うまでもありません。その中で、商社

の役割である製品を売ることについて、その品質だけでなく「上田さんだから」と購入いただくことが何よりの喜びであり、究極の商売の形であると実感しました。今後も絶対的な信頼によってものを売る、「現代の近江商人」が今の目標です。

**思考・気付き・挑戦のサイクル  
で将来を切り拓いてほしい**

滋賀大学で学んだから、今の私があります。自分がやるべきことを考えて挑戦する。先輩や先生とのつながりや充実した学びの環境を最大限に活かす。無駄は一切なかったと言い切れます。大学生には自分のことを考える時間と、失敗できる特権があります。在学生のみなさんにも、一つでも多く挑戦をして将来を切り拓いてもらえればと思います。どうにもならないと思っても、挑戦すればなんとかなりますから。



**活躍する研究者たち**

**Researcher's File**

**推理小説と統計科学共に  
データから問題を解決するおもしろさ**

和泉 志津恵 Izumi Shizue

データサイエンス学部教授。博士(医学)。研究分野は統計科学、統計教育。2016年に滋賀大学に着任しデータサイエンス学部開設を準備、2017年より現職。医学、生物学、遺伝学などにおける統計コンサルティングや国際共同研究の実績がある。



**Q. なぜ統計科学の分野に進んだのですか？**

幼少期から推理小説や伝記を読むのが大好きでした。特に推理小説は、観察された事実(データ)をコツコツと丁寧に積み上げて問題を解決していきます。統計科学の場合、問題の答えは不明であり、データ分析により答えの候補を探します。この推理小説と統計科学での問題解決に向けたデータ分析を活用したアプローチは類似性が高く、これが統計科学の分野に進むきっかけになりました。



先生がお気に入りの推理小説。附属図書館にもありました

**Q. 専門の医療統計学について教えてください**

専門である医療統計学は、医学や生物学におけるデータサイエンスの一つの分野です。患者を対象にした臨床研究や集団を対象とした疫学研究において、交絡、欠測データ、治療不遵守などによるバイアスが入るのを防ぐため、研究デザインを提案し、そのデザインにもとづく解析方法の開発を行っています。具体的には健康診断やレセプト、アンケートデータの解析など身近な場面で活用されています。最近、米国・セントジュード小児研究病院と国際共同研究を開始しました。具体的には小児がん生存者研究に正式なメンバーとして参画しており、大規模な追跡調査を基に医療統計学の手法を用いデータ解析を行っています。なお、これらの研究は小児がん診断から5年以降の生存者の健康状態の研究・改善を目的としています。このように医療統計学は意外とみなさんの身近にある一方で、実際に表には見えてこない裏方として、みなさんの健康が維持できるよう、また豊かな生活が送れるようサポートしています。

**先生がいま、夢中なこと**

「がんばろう!」と踏ん張る時に欠かせないのがチョコレート。お気に入りのチョコレートを箱買いして研究室に常備しているので、研究室はいつも甘い香りに包まれています。チョコレートがあっても力が出ない時は、とにかく睡眠。早い時間に眠り、しっかり休むことにしています。

**取材を終えて**

和泉教授の専門分野である「医療統計学」について「遠い存在」に感じていました。しかし、今回の取材を通して健康診断や診療現場を裏で支える縁の下の力持ちであると知り、つかみ切れなかったデータサイエンスのことが明確になりました。また、経済学部生としてお話しする機会がないデータサイエンス学部の先生を知るだけでなく、推理小説やチョコレートの話からプライベートな一面垣間見れたことも、楽しい気付きになりました。



前田 倅汰  
経済学部  
済美高校(岐阜県)出身



野村 健太  
経済学部  
済美高校(岐阜県)出身



石川 美音  
経済学部  
西大和学園高校(奈良県)出身

●この取材は、「学生広報サポートチーム」が担当しました。詳細はP2をご確認ください。

海外研修や留学の情報は早めに確認

# グローバル社会で活躍するために 国境を超えた交流を

滋賀大学では海外での学びを実現させるために、留学の制度や短期研修プログラムを設けています。また、海外からの留学生と交流できる環境づくりを行っています。

## ✈️ 海外での学びを支援

### 交換留学

#### 交換留学制度を利用して学ぶ

世界14の国と地域にある24の大学などの機関と、全学レベルの学生交流協定を締結。学生の交流や教育研究などの相互協力をはかっています。学部2回生以上で、派遣条件を満たす学生は、制度を利用して1年以内の留学をすることができます。

#### Point

- 留学先大学で修得した単位が、所属学部の審議を経て認定される場合があります。
- 留学期間(1年以内)は本学の修業年限および在籍期間に参入されます。
- 滋賀大学に授業料を納めることで、留学先大学の授業料は免除となります。
- 留学にかかる費用の一部を支援する制度があります。

### 短期海外研修

#### 異文化体験プログラムを実施

夏季休業期間などを利用して、目的意識を持って異文化を体験できる短期海外研修のプログラムを実施しています。海外の大学で授業を受けつつ、現地での生活や地域の文化に触れることで、日本の生活では得られない体験ができます。

#### 研修先

- 夏季語学研修(ミシガン州立大学) 8月~9月
- オーストラリア研究(ディーキン大学) 2月~3月
- 韓国語学・文化研修(啓明大学) 8月
- フランス語文化研修(西部カトリック大学) 9月
- イギリス研修(エセックス大学) 8月
- 中国語研修(東北財経大学) 3月
- メキシコ語学・文化研修(グアナファト大学) 2月~3月

### 留学までのタイムスケジュール

卒業までに交換留学を組み込んだ履修スケジュールの例  
経済学部生 アメリカ(ミシガン州立大学連合) 2学期間の場合

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	春学期				夏季休暇		秋学期				春季休暇	
1回生	英語科目受講、TOEFL受検準備				フィリピン私費語学留学(英語)		英語科目受講、TOEFL受検準備				TOEFL受検	
2回生					TOEFL受検		英語科目受講、TOEFL受検準備、TOEFL受検 学内選考応募&選考					
3回生	留学手続き				出発		留学					
4回生	留学				帰国						卒業	

## ✈️ 海外からの留学生との交流を促進

留学生と日本人学生の交流の活性化を図る拠点として、活用しています。多様な国際経験や異なる価値観に触れる機会を増やすことで、国際交流への関心や、国際感覚の醸成をめざします。

#### グローバルプラザ彦根



#### グローバルプラザ大津



#### 年間行事予定

4月	・新入留学生オリエンテーション
5月	・留学説明会 ・グローバル・コース2次募集説明会
7月	・留学生対象就職活動ガイダンス
9月	・新入留学生オリエンテーション
10月	・留学説明会
12月	・留学生対象就職活動ガイダンス
通年	・滋賀大学グローバルセミナー(概ね月1回程度)

充実した学生生活を送れるよう  
さまざまなイベントを実施

#### 彦根キャンパス

### 生協学生委員会 Ciel

大学生協の職員の方々と協力しながら、滋賀大生がより良いキャンパスライフを送れるようなイベントを企画したり、準備・運営をしたりする学生団体です。具体的な活動内容はその都度メンバーで意見を出し合いながら決めているため、年によって活動内容も異なります。例えば、新入生向けのお役立ち冊子の作成やカフェの新メニュー考案、他団体とコラボした作品展示企画などの小規模企画から、数百人の参加者を募る大学生生活の説明会や学生同士の交流イベントといった大規模な企画まで、企画の規模もさまざまです。企画や役割によって得られる経験も幅広く、コミュニケーション能力や広報物のデザイン力、発想力やプレゼン能力など、社会に出てからも必ず役に立つ力が身につきます。基本的には講義を入れていない空きコマに活動しており、メンバーそれぞれが自身の予定に合わせて日々の活動に参加しています。学業との両立はもちろん、他団体との掛け持ちもしやすいです。



2024年度は5年ぶりに「七夕祭」を開催しました

#### 新入生向け企画

- 春休みに推薦合格者向けの「早期友活」
- 前期試験までの合格者や保護者向けの「新入生・保護者説明会」
- Cielメンバーが新入生からの質問になんでも答えるYouTube配信
- 大規模な新入生交流イベント「友活」



# pick up CLUB & CIRCLE

120以上ある課外活動の団体から、2団体を紹介します。



練習も部旅行も全力で取り組んでいます

## 3部昇格をめざして 選手同士で高め合う

#### 大津キャンパス

### サッカー部

教育学部のサッカー部は、週4日活動しています。関西学生サッカーリーグに参戦しており、3部昇格をめざしています。教育学部の学生のみで構成されているチームということもあり、少ない人数ではありますが、お互いが高め合いながら励んでいます。監督やコーチがいなくても、選手同士で話し合い、考えながら練習や試合に取り組んでいます。そのため、選手同士で直接意見をぶつけ合い、チームとして成長できるのが特徴です。また、部員は強豪校の高校で活躍した選手から、高校サッカーを経験していない選手とさまざまですが、全員が一緒に同じ目標に向かって日々励んでいるところも、私たちの部ならではの思いです。部員全員が学業とアルバイトを両立しながら活動し、さらに、チームでもリーグ戦の打ち上げや部旅行などを企画して行い、プライベートも充実しています。オンとオフをしっかりと区別して取り組んでいけることもサッカー部の良いところです。

#### 2024年の活動

3月	天皇杯
4月~7月	関西学生サッカーリーグ前期
6月	関西学生サッカー選手権大会
6月~12月	関西国公立大学リーグ
9月~11月	関西学生サッカーリーグ後期



# ニュース & トピックス

滋賀大学の最新ニュースを  
YouTubeで毎週、発信しています。



滋賀大学の取り組みや学生の活躍など、注目のニュースを紹介します。  
最新情報は随時、YouTubeでも発信しています。こちらもぜひご覧ください。



MOU調印後の記念撮影

## アメリカ・フロリダ大学と 学術交流協定を締結

□ 全学部

4月17日、アメリカ・フロリダ大学訪問団が表敬訪問され、データサイエンス学部（以下、DS学部）との共同研究を前提としたMOU（了解覚書）の締結、懇談が行われました。  
両大学の学部、大学院などの紹介の後、本学DS学部の南條浩輝教授、大塚道子准教授の研究内容を紹介し、AIやLLM（大規模言語モデル）、マルチモーダル情報処理などに関する話題で活発に意見交換が行われました。フロリダ大学の先生方も非常に興味を示され、共同研究の可能性についての議論もありました。

## 漕艇部の所属メンバーが NZ大学選手権で2種目優勝の快挙

□ 経済学部 □ データサイエンス学部

3月30日・31日にニュージーランドのカラピロ湖にて開催された「2024 Aon NZ University Rowing Championships」(NZ大学選手権)に、NZ・オタゴ大学のメンバーとして、漕艇部から西村菜々花さん(データサイエンス学部4回生)と銚藤蓮さん(経済学部3回生)が出場し、Varsityクラスにおいて両者のクルーがダブルスカルとペアの2種目で優勝を果たしました。  
本学漕艇部のメンバーが海外の大会で優勝するのはこれが初となり、創部以来の快挙です。



大会に出場した西村菜々花さん(左)と銚藤蓮さん

## 海外自主参加体験 「オランダ・プログラム」で教育活動

□ 教育学部

2月29日から12日間、海外自主参加体験「オランダ・プログラム」を実施。教育学部生6名が本学海外交流協定校のゾイド大学およびマーストリヒト日本語補習授業校を訪問し、教育活動に参加しました。  
ゾイド大学では日本語を学ぶ学生の授業に参加し、会話練習補助、日本語アクティビティ、日本文化紹介のプレゼンテーションを行いました。参加した学生たちは、海外の日本語教育や異なる母語・文化を持つ子どもたちが集う補習校の実践への参加を通して、日本の学校教育とは違った教育の難しさとおもしろさを学びました。



ゾイド大学にて、日本語を使ったアクティビティ



## 滋賀大学へご支援のお願い

本学では『滋賀大学基金』を設置し、学生の教育・研究、国際交流、修学、課外活動、データサイエンス教育研究の高度化など、滋賀大学を幅広く支えていただくご支援をお願いしています(税制上の優遇措置の対象です)。  
皆さまの温かいご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

### 『滋賀大学基金』の種類

一般基金	・学生の教育・研究や国際交流活動など、大学全般に対する幅広いご支援
一般基金(ウクライナ支援募金)	・ウクライナからの避難学生の受け入れなどに対するご支援
(以下、特定基金：特定目的へのご支援)	
データサイエンス・AI イノベーション・コモンズ形成基金	・データサイエンス・AI分野のイノベーション・コモンズ(共創拠点)を形成するためのご支援(P8参照)
修学支援事業基金	・経済的な理由で修学が困難な学生に対するご支援
スポーツ・文化活動基金	・学生の課外活動に対するご支援(特定の部活動への支援を指定可)
スポーツ・文化活動基金(彦根地区艇庫建設)	・課外活動充実のため、彦根地区の艇庫建設を目的としたご支援
データサイエンス基金	・データサイエンス教育研究の高度化に対するご支援
経済学部基金	・経済学部における教育研究活動に対するご支援
教育学部基金	・教育学部における教育研究活動、150周年事業に対するご支援
附属学校園いまを生きる基金	・教育学部附属学校園の教育環境充実をはじめ、教育活動に対するご支援
藤村泰子記念基金	・障害児者の音楽教育・音楽活動に対するご支援

### 税制上の優遇措置が受けられます

個人からのご支援で寄附金が2,000円を超える場合は、確定申告によって税制上の優遇措置を受けることができます。

#### 【所得税の「所得控除」について】

寄附金額から2,000円を差し引いた額が総所得から控除されます。

#### 【所得税の「税額控除」について】

寄附金額から2,000円を差し引いた額の40%が税額から控除されます。

	「修学支援事業基金」へのご寄附	「修学支援事業基金」以外のご寄附
所得税	「所得控除」または「税額控除」のうち、いずれかの制度を選択できます。	「所得控除」を受けられます。
住民税	お住まいの都道府県によっては「税額控除」を受けられます(都道府県・市町村が定める条例によって異なります)。	

## 滋賀大学基金ニュース

### ● 令和5年度寄附総額のご報告

**99,052,012円**

皆さまからの多大なるご支援・ご寄附を賜り、厚く御礼申し上げます。  
賜りましたご寄附は、学生のために有効に活用させていただきます。

### ● 感謝の集い(開催報告)

7月9日、滋賀大学基金へ一定額以上のご支援をいただいた個人、法人(企業・団体)の方々をお招きし、謝意をお伝える「滋賀大学基金感謝の集い」を開催しました。竹村彰通学長よりご支援への御礼を、続いて基金担当の須藤正幸理事より滋賀大学基金に関する報告を行い、竹村学長よりお一人おひとりに感謝状を贈呈し、講堂にご芳名板を設置しました。感謝の集い後の懇談会では、本学に対する寄附者の方々の思いやご期待のお声をいただき、本学との絆を深める機会となりました。



「感謝の集い」は滋賀大学講堂で開催

詳しくは寄附金ホームページをご覧ください。

<https://www.shiga-u.ac.jp/kikin/>

〈お問い合わせ先〉 滋賀大学基金室(広報課内)

〒522-8522 滋賀県彦根市馬場1丁目1番1号  
TEL 0749-27-1004 FAX 0749-27-1129  
E-mail kikin@biwako.shiga-u.ac.jp

